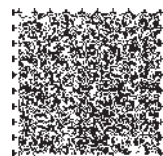


東京2025デフリンピック

— 調布市報告書 —

この冊子には、音声コード「Uni-Voice」が各ページに印刷されています。スマートフォンの専用アプリなどで読み取ると、音声で内容が確認できます。音声コードの位置を把握できるように、音声コードの横に半円の切り欠きを施しています。



はじめに 【報告書の発行にあたって】

日本で初めての開催となった東京2025デフリンピックは、第1回大会がパリで開催されてから100周年を迎える節目の大会でした。日本代表は過去最多の51個のメダルを獲得し、デフスポーツが大きく脚光を浴びる大会となりました。

市内では、京王アリーナTOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ)がバドミントンの競技会場となりました。ラグビーワールドカップ日本大会(2019年開催)、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(2021年開催)に続き、国際的なスポーツイベントが開催されたことは、将来にわたり語り継がれる記念すべき出来事となりました。

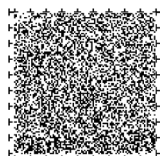
また、9日間にわたり開催されたバドミントン競技において、世界中からデフアスリートが集い、熱戦を繰り広げ、日本代表が、団体戦と女子ダブルスで金メダル、男子ダブルスで銀メダルを獲得するという快挙を成し遂げたことは記憶に新しいところです。大会を通じて、デフアスリートが卓越した競技力を広く社会に発信するとともに、調布市応援アスリートを含め、出場した全ての選手が自らの目標に向かって果敢に挑戦する姿は、多くの市民、とりわけ次代を担う子どもたちに大きな感動、そして夢と希望を与え、市が目指す共生社会の充実への市民の理解を一層深める貴重な機会となりました。

市は、2024年9月に「調布市手話言語条例」・「調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例」を制定し、手話が言語であることや、障害の特性に応じた多様な意思疎通のために必要な手段、配慮、支援等について広く理解されることで、障害者の権利が保障され、誰もが相互に尊重し合いながら安心して暮らすことができる共生社会の一層の充実を図っています。東京2025デフリンピック開催にあたっては、調布市聴覚障害者協会をはじめ、多様な主体の皆様と連携しながら、デフスポーツの体験機会の提供や大会のPRなど、様々なスポーツイベントを通して、市民への機運醸成、手話の普及啓発に積極的に取り組んで参りました。これらを一過性のものとせず、大会のレガシーとして継承・発展させ、更なる共生社会の充実につなげて参る所存です。

最後になりますが、大会に向けて市の取組にご協力・ご尽力いただいたすべての関係機関・団体、また個人の皆様に心より感謝申し上げます。

調布市長

長友貴樹



目次

はじめに 【報告書の発行にあたって】

1 【第1章】大会概要

03 東京2025デフリンピック概要

2 【第2章】大会に向けた取組

05 第1部 大会までの調布市のあゆみ

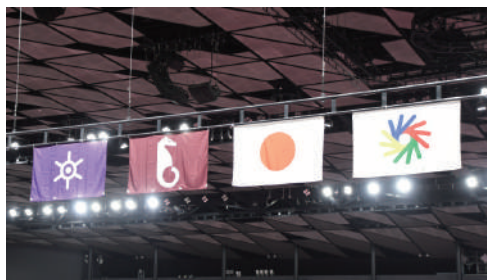
07 第2部 機運醸成に向けた主な取組

3 【第3章】大会期間中・大会終了後の取組

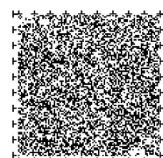
15 大会期間中・大会終了後の市の取組

4 【第4章】総括

17 総括(レガシー)



©東京都



1

【第1章】大会概要

東京2025デフリンピック概要

2025年に東京で開催された夏季デフリンピック競技大会は、日本では初めての開催であり、1924年にパリで第1回大会が開催されてから、100周年の記念となる大会でした。

調布市が開催会場となったバドミントン競技は、女子ダブルス・団体戦で金メダル、男子ダブルスで銀メダルを獲得したことをはじめ、日本選手団のメダル獲得数が過去最多となり、大会を盛り上げました。

デフリンピックとは

- デフリンピックは、国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」
- 「デフリンピック」の名称は、2001年に国際オリンピック委員会(IOC)が承認
- 国際ろう者スポーツ委員会(ICSD: International Committee of Sports for the Deaf)が主催し、夏季と冬季それぞれ4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会
- 競技は一般の競技ルールに準拠するが、競技場に入った時点から、補聴器等の使用は禁止されることや、競技運営に国際手話のほか、スタートランプや旗などを利用した視覚による情報保障を用いることが特徴



開会式の様子

©東京都

東京2025デフリンピック

大会期間 2025年11月15日~26日【12日間】

参加国 79か国・地域等 参加選手数 2,943人
※2026年1月30日時点

競技数 21競技 調布市内開催競技 バドミントン

総来場者数 約33万人(競技会場及びデフリンピックスクエア)

日本のメダル数 総メダル数51個(金16個・銀12個・銅23個)

過去最多!

大会エンブレム

人々の繋がりを意味する「輪」をテーマとしています。デザインでは、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現。花は桜の花弁をモチーフとしています。

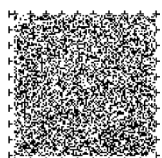


東京2025デフリンピック大会エンブレム

調布市内競技会場

京王アリーナTOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ)

2017年11月に多摩地域のスポーツの拠点として、開業した総合スポーツ施設。大規模なスポーツ大会やイベント興行が数多く行われています。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、バドミントン、フェンシング(近代五種)、車いすバスケットボールが開催されました。



調布市内開催競技スケジュール

競技 バドミントン 会場 京王アリーナTOKYO

種目	シングルス(男/女)	ダブルス(男/女)	混合ダブルス	団体戦
15日(土)	開会式			
16日(日)	男 09:30-18:10 女 10:10-18:50			
17日(月)	男 09:30-13:30 女 10:50-12:50		13:30-18:50	
18日(火)		男 10:10-18:10 女 10:50-16:50	09:30-10:10	
19日(水)	男 09:30-18:50 女 09:30-18:10	男 13:30-16:10 女 14:10-16:10		
20日(木)	男 14:10-14:50 女 14:50-15:30	男 15:30-16:10 女 16:10-16:50	09:30-17:30	
21日(金)	男 09:30-10:10 女 10:10-10:50 男 14:10-14:50 女 14:50-15:30	男 10:50-11:30 女 11:30-12:10 男 15:30-16:10 女 16:10-16:50	12:10-12:50 16:50-17:30	
23日(日)				10:30-13:50 14:30-17:50
24日(月)				10:30-13:50 14:30-17:50
25日(火)				10:30-13:50 14:30-17:50
26日(水)	閉会式			

※22日(土)は開催種目なし。

大会結果



左:矢ヶ部 紋可 選手 右:矢ヶ部 真衣 選手

日本人選手も活躍し、メダル数は、過去最多の計51個(金16個・銀12個・銅23個)という成績を残しました。

調布市内を競技会場としたバドミントン競技では、団体戦、女子ダブルス(矢ヶ部紋可・矢ヶ部真衣ペア)で金メダル、男子ダブルス(永石泰寛・森本悠生ペア)で銀メダルを獲得しました。

大会期間中における競技動画のYouTube配信が約320万回再生(2025年11月27日時点)されるなど、国内外から高い関心が寄せられる大会でした。

調布市応援アスリート



デフゴルフ

2024年11月1日応援アスリート認定

袖山 哲朗 選手

11月18日から21日まで若洲ゴルフリンク스에서開催されたゴルフ競技に出場しました。

種目

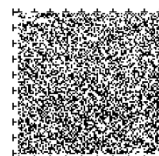
個人戦(男子)

大会結果

23位タイ(参加者数42人)

調布市応援アスリートとは

調布市にゆかりのあるアスリートを「調布市応援アスリート」として認定し、市をあげて応援することにより、“地域から応援されること”を後押しし、アスリートのさらなる飛躍を期待するもの。また、市民が一体となって応援し、交流を図ることで、市民のスポーツへの関心や活動意欲を高め、スポーツ振興へと繋げることを目的としている。



第1部 大会までの調布市のあゆみ

2022年9月、2025年デフリンピックの開催地に東京が正式に決定されました。

市は、調布市聴覚障害者協会をはじめとした多様な主体と連携しながら様々な取組を展開し、障害に対する理解の促進を通じて、更なる共生社会の充実を目指しました。

東京2025

デフリンピックの開催決定

2022年9月9日、10日にオーストリア(ウィーン)で開かれたICSD総会において、一般財団法人全日本ろうあ連盟が2025年デフリンピックの開催地に立候補し、多くの支持を得て東京開催が正式決定しました。日本では初めての開催であり、また1924年にパリで第1回デフリンピックが開催されてから100周年となる歴史に残る大会になりました。市内では、バドミントン競技が京王アリーナTOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ)で開催されることになりました。

調布市の取組方針

東京2025デフリンピックの開催に向け、障害者の意思疎通の権利保障と共生社会の充実を目的に、2024年9月に手話を独自の「言語」として位置付けた「調布市手話言語条例」及び、障害特性に応じた多様なコミュニケーション手段の必要性を明確化した「調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例」を制定しました。

また、大会を契機として共生社会の更なる充実を図るため、福祉健康部障害福祉課・生活文化スポーツ部スポーツ振興課・教育部指導室の3課が横断的に連携し、様々な角度から大会に向けた機運醸成、障害理解の促進及び手話の普及啓発に繋げる取組を実施しました。



東京2025デフリンピック大会ビジョン

大会ビジョン

01

デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ

デフアスリートを主役に、最高のパフォーマンスを発揮できるよう大会準備を進め、その姿を通じて、本来、スポーツが持っている素晴らしさとともに、デフリンピックやデフスポーツの魅力や価値を発信し、普及・啓発に努める。また、あらゆる人が協働した大会運営や子どもたちの参画など、多様な視点を大切にしたい大会運営をめざす。

02

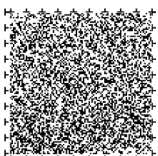
世界に、そして未来につながる大会へ

大会を通じた手話言語の理解・普及・拡大など従来からの情報保障の推進・強化に加え、デジタル技術を活用した、新しいコミュニケーションツール等の開発、社会への普及を促進する。このような取組を通して、国籍や障害のあるなしに関わらず、誰もが心を通わせることのできる街・東京の魅力を感じてもらい、世界との絆を深めていく。

03

“誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現

大会開催を機に、デフリンピック・ムーブメントとして、デフスポーツやろう者の文化への理解を促進し、障害のある人となない人とのコミュニケーションや心・情報・街のバリアフリーをさらに推進する。このムーブメントを通して、互いの違いを認め、尊重しあい、誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会づくりに貢献する。



出典：一般財団法人全日本ろうあ連盟 東京都 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 「第25回東京デフリンピック競技大会 東京2025大会概要」

多様な主体との連携

調布市聴覚障害者協会との連携

東京2025デフリンピックの機運醸成と手話の普及啓発において、当事者の視点を有する調布市聴覚障害者協会に協力いただきました。

また、「調布市デフプログラム」(デフプロ)の手話言語・プログラムの実施時に、講師として登壇いただきました。

日本デフバドミントン協会との連携

「調布市デフプログラム」(デフプロ)のデフバドミントン・プログラムの実施時に、矢ヶ部紋可選手・鎌田真衣選手に講師として登壇いただくとともに、動画制作の際に、日本デフバドミントン協会所属選手に出演・協力いただきました。

調布市応援アスリートとの連携

「調布市デフプログラム」(デフプロ)の応援アスリート・プログラムの実施時に、デフゴルファーで調布市応援アスリートの袖山哲朗選手、妻の由美氏に講師として登壇いただきました。

ケアイスター不動産株式会社

との連携

「調布市デフプログラム」(デフプロ)のデフフットサル・プログラムの実施時に、ケアイスター不動産株式会社ケイアイチャレンジドアスリートチーム所属の山本典城氏(デフフットサル・サッカー女子日本代表監督)をはじめ、デフフットサル選手に講師として登壇いただきました。

調布市登録手話通訳者の会との連携

「調布市デフプログラム」(デフプロ)の実施や動画制作にあたり、手話通訳者を派遣いただきました。

府中市との連携

「デフバドミントン日本代表・台湾代表の合同合宿」開催にあたり、市民が見学可能な公開練習を府中市と連携し実施しました。また、「デフバドミントン日本代表強化合宿の練習公開・壮行会」及び機運醸成に向けた「動画制作」を府中市と合同で実施しました。

寄稿文

調布市聴覚障害者協会 会長 井村 茂樹 様より、

デフリンピックへの思いや大会に向けて協会で実施された取組についてご寄稿いただきました。

調布市聴覚障害者協会 会長
井村 茂樹 様

調布市においてバドミントン競技が行われるにあたり、当会では、デフリンピックの啓発のため主に以下の内容に取り組みました。

- 1.市主催の「デフプログラム」で小・中学校にて手話体験・指導(6~9月)
- 2.調布市役所前庭でデフリンピックキャラバン実施(11/9)
- 3.デフリンピック「開会式を観る会」開催(11/15)
- 4.バドミントン競技の応援観戦会実施(11/23)
- 5.その他、市主催のデフリンピック啓発に関する諸企画への協力

どの取組でも、障害当事者である私達と市、手話通訳者、および様々な立場の

関係者が準備の段階から連携して取り組みましたが、デフリンピックが近づくにつれ、地域の方々にも手話や聞こえない人への接し方などが少しずつ浸透していることを実感いたしました。

バドミントン応援観戦の時は、ろう者聴者を問わず、皆一体となって目で見て分かる応援方法「サインエール」が何度も繰り上げられました。会場の皆でリズムを合わせて楽しむという一体感を大いに感じることができました。

デフリンピックのレガシーは、ろう者も聴者もそれぞれの違いを受容し共に住みやすい調布を築いていくために何が必要かを意識させたことにあります。

当会でも、2年前に制定・施行された「調布市手話言語条例」「調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例」、そして今

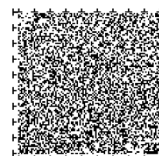
回のデフリンピックで培った経験をもとに、今後も調布市の皆さまと共に歩み続けていきたいと存じます。



バドミントン競技応援観戦会



キャラバンカー巡回



2

【第2章】大会に向けた取組

第2部 機運醸成に向けた主な取組

市では、東京2025デフリンピック開催にあたり、大会の機運醸成・障害理解促進のため、多様な主体と連携・協力して、様々な取組を実施しました。

デフバドミントン日本代表・台湾代表公開練習

府中市と合同で、東京2025デフリンピックに出場予定のデフバドミントン日本代表と台湾代表の公開練習を京王アリーナTOKYOで実施しました。

日程 2024年8月24日・25日

場所 京王アリーナTOKYO

東京2025デフリンピック開催1年前イベント！ デフ×スポーツ講演会

デフリンピックやデフスポーツ、デフアスリートに関する市民の興味・関心を喚起し、親しみ応援する機運を醸成するとともに、聴覚障害や手話に関する理解を深めることを目的とした講演会を開催しました。

日程 2024年12月7日

場所 調布市教育会館

講師

- ・橋本 一郎氏(垂細垂大学経営学部経営学科特任准教授／手話通訳士)
- ・岡田 海緒選手(デフ陸上)
- ・瀬井 達也選手(デフビーチバレーボール)
- ・親松 直人選手(デフテニス)

内容

- (1)手話言語講座
- (2)講演会
 - ・きこえないってどういうこと？
 - ・デフスポーツについて
 - ・デフリンピックとは？



教員向け障害理解を深める研修会

「デフリンピック競技観戦・体験活動事業」や「デフプロ」の取組をより効果的なものにするるとともに、今後の市立小・中学校における障害理解の更なる促進につなげていくことを目的として、市教育委員会と連携して研修会を実施しました。

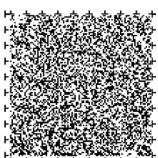


日程 2025年7月29日

参加者 武蔵野市・三鷹市・府中市・調布市・狛江市の教職員 123人

内容

- (1) 東京2025デフリンピック応援アンバサダー 川俣郁美氏の講演「みんなでつくるデフリンピックと共生社会」
- (2) 趣旨説明・小学校における「手話授業」等について
- (3) 調布市の取組の紹介
 - ① 取組概要、機運醸成・障害理解について
 - ② 手話言語条例、普及・啓発について
- (4) 手話演習・PCを使用した「手話タウン・ハンドブック(手話学習アプリ)」体験



東京2025デフリンピック特別授業「調布市デフプログラム」(デフプロ) 「デフバドミントン・プログラム」「デフフットサル・プログラム」「応援アスリート・プログラム」 「手話言語・プログラム」

市立小・中学校を対象として、デフアスリートに親しみを持ち、聴覚障害への理解を深める特別授業を実施しました。

デフバドミントン・プログラムでは、口の動きで単語を読み取るゲームや児童生徒たちが耳栓をつけて行う競技体験を実施。デフバドミントン日本代表選手のデモンストレーションでは、次々と繰り出される技に子どもも先生も釘付けになっていました。

デフフットサル・プログラムでは、ジェスチャーを使った伝言ゲームや色の手話を覚えて行うドリブルゲームを実施。最初は戸惑っていた子どもたちも、徐々に手話やアイコンタクトを使ったコミュニケーションに慣れていき、音のない環境で協力し合う楽しさを体感しました。

応援アスリート・プログラムでは、日本手話とアメリカ手話を見比べて違いを学ぶ手話学習や、選手と児童・生徒、先生によるパター対決を実施。トーナメント方式で行われたパター対決では白熱した試合が行われ、カップインした際には敵味方関係なく喜び合いました。

手話言語・プログラムでは、聴覚障害者が講師となり、日本手話をベースに複数の動きを組み合わせた、目で見て分かる応援方法「サインエール」を練習しました。そのほか、コミュニケーション体験や日常で使う手話や身近なものを表す手話を教わるなど、子どもたちは意欲的に授業に参加しました。

実施期間 2025年6月～10月

場 所 市立小・中学校 17校

内 容

- (1)デフバドミントン・プログラム
講師：矢ヶ部 紋可選手、鎌田 真衣選手
(日本デフバドミントン協会所属)
- (2)デフフットサル・プログラム
講師：山本 典城氏、岩淵 亜依選手、
川畑 菜奈選手、東海林 香那選手(ケイアイ
チャレンジドアスリートチーム所属)
- (3)応援アスリート・プログラム
講師：袖山 哲朗選手(デフゴルファー)と
妻・由美氏
- (4)手話言語・プログラム
講師：聴覚障害当事者及び手話通訳者



デフバドミントン・プログラム



デフフットサル・プログラム



応援アスリート・プログラム



手話言語・プログラム

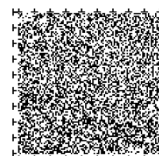


手話ハートウィーク

デフリンピックの機運醸成と市職員の手話への理解を深めるため、9月23日の「手話言語国際デー」と「手話の日」を含む日程で、あいさつ運動を実施しました。

実施期間 2025年9月22日～26日

内 容 市役所、調布市教育会館、調布市文化会館たづくり西館で、職員の出勤時及び退勤時に手話によるあいさつ運動



[第2章] 大会に向けた取組

第2部 機運醸成に向けた主な取組

職員向け障害理解研修

3人兄弟のうち2人が聴覚障害者であるユーチューバーを講師に迎え、聴覚障害者の日常や、行政職員に求めること、親しみやすい手話など、体験参加型の市職員研修を実施しました。



日程 2025年9月25日

参加者 市職員 43人

内容 (1) 聴覚障害とは (2) デフリンピックについて
(3) 日常生活での体験談 (4) 手話講座

調布市障害者地域自立支援協議会講演会

東京2025デフリンピックの機運醸成と手話の普及啓発を目的に、聴覚障害及びスポーツに関する映画上映とトークセッションを実施しました。

日程 2025年10月18日

場所 イオンシネマ シアタス調布

参加者 104人

内容 映画「アイ・コンタクト」の上映とトークセッション

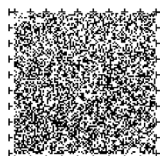


調布市民スポーツまつりをはじめとする市内イベントへのブース出展

市内イベント開催時に手話とバドミントンを組み合わせた的当て競技を実施しました。誰もが扱いやすいミニラケットを使用してバドミントンのシャトルを打ち、的に描かれた手話を披露するなど、手話に親しみを持ってもらう内容を企画しました。



日程	イベント
2025年10月11日	第43回調布市民スポーツまつり
2025年10月25日・26日	マルシェ ドゥ 調布
2025年11月23日	調布市障害者余暇活動支援事業・ほりでーぶらん
2025年12月7日	第48回調布市福祉まつり



デフバドミントン日本代表強化合宿 練習公開&壮行会

調布市と府中市の2市合同で、デフバドミントン日本代表を応援する取組として練習公開・壮行会を実施しました。壮行会では、2市から応援グッズと横断幕を贈呈したほか、参加者から選手への質問タイムなど、観客との交流を通じて選手たちを激励しました。

日程 2025年10月19日

場所 東京競馬場日吉体育館



デフバドミントン日本代表強化合宿 練習公開&壮行会

デフリンピックキャラバンカー

一般財団法人全日本ろうあ連盟のキャラバン隊が中心となり日本全国を巡回するデフリンピックキャラバンカーが、調布市を来訪しました。当日は、調布市聴覚障害者協会と協力し、イベントを実施しました。

来訪日 2025年11月9日



キャラバンカー来訪の様子

各種制作物・装飾

うちの作成及び配布による普及啓発

東京2025デフリンピック大会エンブレムが入った市オリジナルのうちわを配布し、大会の普及啓発を実施しました。

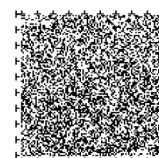
配布枚数 3,000枚

配布場所 障害福祉課をはじめとした各部署、公共施設、市内で開催された各種イベント



オリジナルエコバッグの作成

東京2025デフリンピック大会エンブレムが入った市オリジナルエコバッグを市及び関係機関の職員向けに作成しました。



[第2章] 大会に向けた取組

第2部 機運醸成に向けた主な取組

動画制作

調布市公式YouTubeチャンネル及び同Instagramにおいて、大会の機運醸成と手話の普及啓発を目的とした動画による広報を実施しました。



公開日	2024年11月19日
タイトル	調布市職員 デフスポ応援男子がゆく!! 初心者なんですけどスマッシュをカッコよく決めたい!!
主な出演・協力	● 沼倉 昌明 選手 (日本デフバドミントン協会所属) ● 矢ヶ部 紋可 選手 (日本デフバドミントン協会所属)

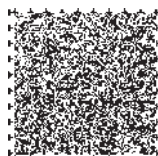


府中市との合同企画!

公開日	2025年10月21日
タイトル	東京2025デフリンピック開幕間近!! デフバドミントン選手の素顔に迫る!!【前編】【後編】
主な出演・協力	● 伊東 勇哉 選手 (日本デフバドミントン協会所属) ● 鎌田 真衣 選手 (日本デフバドミントン協会所属)



公開日	2025年11月4日
タイトル	調布市応援アスリート 袖山哲朗選手の東京2025デフリンピックへの挑戦!
主な出演・協力	● 袖山 哲朗 選手 (デフゴルフ選手/調布市応援アスリート)



市公式SNSを活用した動画広報

調布市公式YouTubeチャンネル及び同Instagramにおいて、大会の機運醸成と手話の普及啓発を目的とした動画を配信しました。

- 配信日** 2025年5月19日より順次公開
- 配信数** 30動画
- 主な出演・協力** 市と協定を締結しているチームのアスリートや文化振興団体のほか、障害当事者、多様な障害福祉サービス事業所など



指差し案内シート(飲食店用)



指差し案内シート(小売店用)

市オリジナル指差し案内シート

市内の商工会に加入している飲食店や小売店などを対象に、円滑なコミュニケーションを支援する指差し案内シートを作成・配布しました。

地域共生推進ふれあい商店等補助事業によるコミュニケーションボードの購入補助

調布市商工会を通じて、市内商店等のバリアフリー化を図る事業にて、店舗の業態に合わせたコミュニケーションボード(筆談ボード・指差しメニュー等)の購入補助を実施しました。※補助割合10分の10(上限5万円)



筆談ボード



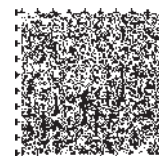
指差しメニュー



写真撮影用パネル

写真撮影用パネルの制作・活用

大会開催日程や「手話言語で応援しよう!」のメッセージを掲載したパネルを制作しました。本パネルは各種イベントにおいて、子どもから大人まで幅広い世代に活用されました。

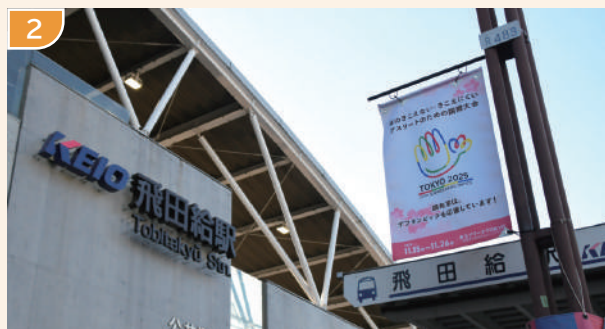


[第2章] 大会に向けた取組

第2部 機運醸成に向けた主な取組

デフリンピックカラーの装飾に染まった調布市

市役所に応援の横断幕を掲出したり、市内イベントでデフリンピック関連のブースを出展した際には、のぼり旗を設置しました。また、調布市文化会館たづくりを大会ロゴカラーの赤、緑、黄、青色に、調布駅前広場口屋根を大会メインカラーの桜色にライトアップし、飛田給駅から京王アリーナTOKYOへ向かうスタジアム通りにデフリンピックの街路灯フラッグを掲出するなど、市内のさまざまな場所に装飾を施しました。



1. 横断幕

掲出期間	2025年11月12日～2026年2月27日
場 所	市役所

2. 街路灯フラッグ

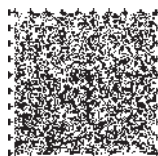
掲出期間	2025年10月31日～11月26日
場 所	飛田給駅スタジアム通り

3. ライトアップ

実施期間	ア. 調布市文化会館たづくり 2025年11月1日～26日
	イ. 調布駅前広場口屋根 2025年11月16日～26日

4. のぼり旗

設置期間	2025年11月17日～26日
場 所	市役所1階・2階



大会応援企画

調布市エールの花束プロジェクト

みんなのエールを集めました!

調布市内で開催されたイベント内でワークショップを開催して、参加者に応援の気持ちを込めた花のイラストを描いてもらい、バドミントン競技会場である京王アリーナTOKYOの装飾や、タオル・うちわといった応援グッズを制作しました。制作した応援グッズは、デフアスリートをはじめとする関係者やデフバドミントン日本代表の皆さんにお届けしました。

コンセプト

- ・「好きな花の絵を描く」という年齢や障害、国籍に関わらず参加できる企画を通して幅広い層の市民にデフリンピックとの「接点」を作る
- ・スポーツに関心のない方でも、自分の描いた絵がどんな形に仕上がって飾られるかという興味をきっかけに競技会場へ足を運んでもらう
- ・装飾を見た選手(日本選手に限らない)に華やかな気持ちになってもらう(おもてなし)



募集期間 2025年6月28日～9月30日

応募方法

- (1) ワークショップに参加
- (2) 市役所等に設置されている応募箱に花の絵を描いた用紙を投函
- (3) Webフォームから応募

応募総数 738輪



ワークショップの様子

メイキング動画

ワークショップなど、制作の様子をまとめたメイキング動画を市公式YouTubeチャンネルで公開しています。

タイトル「東京2025デフリンピック 応援企画『調布市エールの花束プロジェクト』メイキングMovie」



会場装飾 バドミントンの競技会場となった市内の京王アリーナTOKYOの柱に装飾を施し、会場を彩りました。



柱巻き

応援グッズ イラストの組み合わせが異なる10種類のうちわを作成し、デフリンピック関連イベントや京王アリーナTOKYO内に出展した調布市ブースで配布。試合観戦時の応援に活用していただきました。



うちわ

応援グッズ 花のイラストで「JAPAN」の文字を象ったマフラータオルを制作し、選手や大会関係者へ寄贈したほか、デフバドミントン団体観戦プログラムの参加者等へ配布しました。



マフラータオル

親松直人選手(デフテニス)



調布市応援アスリート 袖山哲朗選手(デフゴルフ)



瀬井達也選手(デフビーチバレーボール)



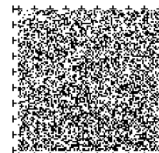
岩淵亜依選手・川畑菜奈選手・東海林香那選手・山本典城監督(デフフットサル)



保科隼希氏(手話通訳士/デフ陸上日本選手団スタッフ)・岡田海緒選手(デフ陸上)



橋本一郎氏(手話通訳士)



3

【第3章】大会期間中・大会終了後の取組

大会期間中・大会終了後の市の取組

大会期間中

団体観戦

市民が会場に直接足を運んで競技を観戦・応援する機会を創出するとともに、障害への理解促進を目的とした団体観戦プログラムを実施しました。プログラムでは、観戦前に大会に関する情報やデフスポーツならではの応援の仕方を学べるミニ講座を行い、覚えたサインエールで選手たちを応援しました。

また、調布市聴覚障害者協会及び調布市登録手話通訳者の会や障害当事者及びその家族、市立保育園、小中学校を対象とした団体観戦を実施し、試合観戦を通じて、デフスポーツに触れる機会を提供しました。

東京2025デフリンピック「デフバドミントン団体観戦プログラム」

日程	2025年11月23日
場所	京王アリーナTOKYO
参加者	(1)午前の部 29人 / (2)午後の部 28人
内容	(1)ミニ講座 / (2)試合観戦

調布市障害者余暇活動支援事業「ほりで一ぶらん」の団体観戦

日程	2025年11月23日
場所	京王アリーナTOKYO
対象者	障害当事者及びその家族、担当する施設職員
参加者	(1)障害当事者 20人 / (2)スタッフ 26人

調布市聴覚障害者協会及び調布市登録手話通訳者の会の団体観戦

日程	2025年11月23日
場所	京王アリーナTOKYO
対象者	両協会加入者及びその家族
参加者	70人



観戦前ミニ講座

令和7年度笑顔と学びの体験活動プロジェクトにおける「デフリンピック競技観戦・体験活動事業」(東京都)

参加校	市立小・中学校 全28校
参加者	児童・生徒3,254人、引率者198人、合計3,452人
観戦競技	(1)バドミントン 23校 / (2)バレーボール 4校 (会場:駒沢オリンピック公園総合運動場) / (3)柔道 1校(会場:東京武道館)



市立小・中学校による観戦の様子



「ほりで一ぶらん」の団体観戦

市立保育園による団体観戦

参加園	市立保育園 6園	観戦競技	バドミントン
参加者	(1)園児 102人 / (2)引率者等 22人		



市立保育園による団体観戦

ブース出展

国内外から多くの来場者が訪れることから、開催期間中、バドミントン競技会場の京王アリーナTOKYOに調布市ブースを出展しました。会場では、調布市PR動画の上映や観光マップなどの配布、市内福祉作業所によるアート展示、「調布市エールの花束プロジェクト」で制作した応援うちわの配布を実施しました。

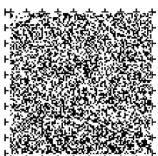
また、市内福祉作業所で作られたパンやお菓子の販売も行い、共生社会の推進と販売機会の創出につなげました。

社会福祉法人調布市社会福祉事業団「すまいる」

日程	2025年11月19日
販売物品	パン

社会福祉法人調布を耕す会「しごと場大好き」

日程	2025年11月20日
販売物品	お菓子





大会会場の調布市ブース



福祉作業所販売の様子



大会終了後

横断幕

デフバドミントン日本代表が、混合団体戦及び女子ダブルスで金メダル、男子ダブルスで銀メダルを獲得したことを受け、大会終了後には、市役所に横断幕を掲出し、市をあげてメダル獲得をお祝いしました。



表敬訪問

調布市応援アスリートでデフゴルフ日本代表の袖山哲朗選手とデフバドミントン日本代表の矢ヶ部紋可選手・鎌田真衣選手が市役所に来庁し、大会の報告や今後の抱負を話しました。



左から2番目 袖山哲朗選手



右2人目から、鎌田真衣選手・矢ヶ部紋可選手・大貫浩太氏 (日本デフバドミントン協会代表理事)

透明ディスプレイ(音声文字化・多言語翻訳システム)

聴覚障害者、外国語使用者などとのコミュニケーション円滑化のため、市の一部の窓口に音声テキスト変換、多言語翻訳し、透明ディスプレイに表示する機器を設置しました。



障害福祉課窓口



調布市観光案内所

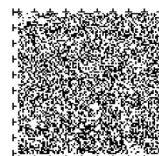
設置時期	2025年11月15日(障害福祉課は11月17日から)	主な機能	(1)日本語音声を文字(テキスト)化して透明ディスプレイに表示 / (2)32言語(日本語含む)を自動通訳し、透明ディスプレイに表示 ※(2)のうち、12言語はリモートによる通訳者を介したビデオ通訳にも対応
設置場所	(1)障害福祉課窓口(市役所2階) (2)調布市観光案内所 (京王線調布駅改札外地下コンコース内)		

職員向け障害理解研修

障害理解の促進と普及啓発を推進するため、毎年市職員向けに研修を実施しています。今年度は障害当事者の講師3名による、市職員向け障害理解研修を実施しました。

職員向け障害理解研修概要

日程	2025年12月18日
参加者	43人
内容	障害は個人の心身機能が原因であると見る医療モデルではなく、「障害者が直面する困り事は社会や環境に起因するものである」と見る社会モデルの見方や、グループワークを実施



総括（レガシー）

総括

東京2025デフリンピックは「誰もが個性を活かし力を発揮できる」共生社会の実現」を大会ビジョンの一つに掲げています。デフリンピックは国際的な総合スポーツ競技大会であると同時に、聴覚障害を中心とした障害理解を推進するための大きな機会でもありました。そのため、市では、スポーツ部門だけでなく、福祉部門と教育部門が横断的に連携し、大会の機運醸成とともに、2024年9月に制定した調布市手話言語条例及び調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例を基本としながら、聴覚障害者のみならず、意思疎通に配慮が必要な方に対する理解を促進するための様々な取組を実施してきました。

特に、手話については、市民への普及啓発と併せて、市職員が積極的に理解する意識を持つことが重要であると考え、2024年12月と2025年9月のそれぞれ1週間を手話ハートウィークとして、手話による挨拶運動を実施しました。また、子どもたちが国際的なスポーツ大会に触れる機会を提供し、障害への理解を深めるため、市立小・中学校の児童・生徒を対象にデフスポーツや手話を学ぶ授業及び大会の団体観戦を実施しました。そうした中で、すべてのデフアスリートが自らの目標に向かって果敢に挑戦する姿は、全市民、とりわけ次世代を担う子どもたちに大きな感動、そして夢と希望を与えてくれたものと

確信しています。

さらに、市内商店への指差し案内シートの配布、障害福祉課及び観光案内所への透明ディスプレイの設置などの取組は、大会のレガシーとしてコミュニケーションの円滑化や環境整備につながったものと認識しています。

こうした大会を契機とした取組の推進にあたっては、多くの市民の参画をはじめ、他自治体、調布市聴覚障害者協会などの多様な主体との連携・協働で進めてきました。今後は、これまでの取組を一過性のものとせず、大会のレガシーとして継承・発展できるよう継続して取り組んで参ります。

デフリンピックと共生社会に関するアンケート結果

市では、大会の理念の一つである障害理解の観点から、市民の意識の変化も重要なレガシーと認識しています。大会前後に実施した「デフリンピックと共生社会に関するアンケート」の結果から、市民の意識変化を確認しました。

アンケート概要 デフリンピック及び共生社会に関する認知度や関心の意識調査

実施方法 大会前 市オリジナルうちわ（3,000枚）の二次元コードから回答
大会後 調布駅前やイベントで広報物（1,000枚）配布し、二次元コードから回答

実施期間 大会前 2025年8月10日～11月25日
大会後 2025年12月6日～31日

回答数

大会前 70件
大会後 78件

①「デフリンピック」という言葉の認知度

大会前に「よく知っている」「ある程度知っている」と答えた市民は76%でしたが大会後は93%へと大幅に向上しています。

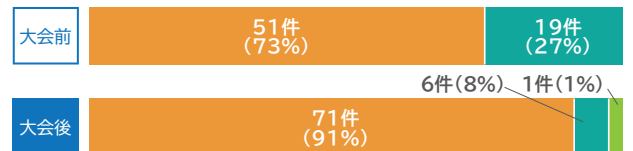
■よく知ってる ■ある程度知っている ■名前だけ知っている ■全く知らない



②調布市でデフリンピック競技が行われることの認知度

大会前に「知っている」と回答した市民は73%でしたが、大会後は91%に増加しました。

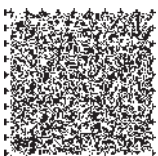
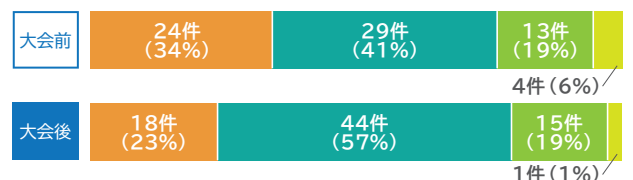
■知っている ■知らなかった ■知っていた



③「共生社会」という言葉の認知度

大会前に「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した市民の合計は75%でしたが、大会後は80%へと微増しています。

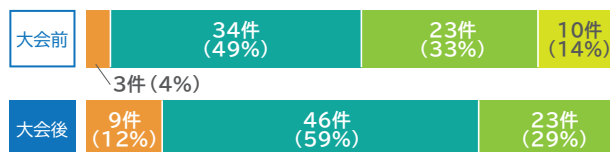
■よく知っている ■ある程度知っている ■聞いたことがある ■全く知らない



④ 調布市が、共生社会の充実に向けて取組んでいるか

「非常に感じる」は4%から12%に、「ある程度感じる」は49%から59%に増加し、大会後は約7割が調布市の取組を実感している結果となりました。

■非常に感じる ■ある程度感じる ■あまり感じない ■全く感じない



⑤ どのような取組で実感するか

④で非常に感じる、ある程度感じると回答した方のうち、約6割の回答者が「パラハートちょうふ」に関する取組を実感していると回答しました。加えて、市内のバリアフリー状況の改善や周囲の人々の接し方に関する意識も大会前後で向上しています。

項目	大会前	大会後
1. 市内のバリアフリー整備に関する取組	12件 (32%)	28件 (51%)
2. 「手話言語条例」など法律の整備に関する取組	14件 (38%)	17件 (31%)
3. 「パラハートちょうふ」のようなキャッチフレーズに関する取組	23件 (62%)	34件 (62%)
4. まわりの人の接し方や対応など、障害理解に関する取組	8件 (22%)	16件 (29%)
5. その他	0件 (0%)	3件 (5%)

⑥ どのような取組があれば、より実感できるか

④であまり感じない、全く感じないと回答した方のうち、ハード面でのバリアフリー環境整備は52%から61%に増加。特にまわりの人の接し方や対応などのソフト面は52%から78%へ大きく伸びました。これらはデフリンピック開催による意識向上の成果と考えられます。

項目	大会前	大会後
1. 市内のバリアフリー整備に関する取組	17件 (52%)	14件 (61%)
2. 「手話言語条例」など法律の整備に関する取組	5件 (15%)	3件 (13%)
3. 「パラハートちょうふ」のようなキャッチフレーズに関する取組	5件 (15%)	4件 (17%)
4. まわりの人の接し方や対応など、障害理解に関する取組	17件 (52%)	18件 (78%)
5. その他	3件 (9%)	0件 (0%)
6. 未回答	1件 (3%)	0件 (0%)

⑦ 共生社会充実のために、市民としてできること

「困っている人がいたら声をかける」は大会前後とも80%超を維持。「ボランティア参加」は32%から40%に上昇し、意識の高まりがうかがえます。

項目	大会前	大会後
1. 困っている人がいたら手助けする（例、声をかける、席を譲る）	58件 (84%)	69件 (88%)
2. 多様性を尊重する言葉遣いを心がける	40件 (58%)	40件 (51%)
3. イベントや講座に参加する	27件 (39%)	28件 (36%)
4. 地域のボランティアに参加する	22件 (32%)	31件 (40%)
5. その他	5件 (7%)	2件 (3%)

⑧ 実践しやすいと感じる聴覚障害者とのコミュニケーション

大会前後とも、筆談が最も取組やすい方法として挙げられています。大会中に様々な方法が紹介されたことから、コミュニケーションボードやジェスチャーの割合がそれぞれ増加しました。これらは普及啓発活動によって多様な方法が周知された成果と考えられます。一方、手話はやや減少しており、身近に学べる環境づくりが課題です。

項目	大会前	大会後
1. 手話	31件 (44%)	26件 (33%)
2. 筆談	53件 (76%)	65件 (83%)
3. 要約筆記	2件 (3%)	5件 (6%)
4. 手話通訳士（者）	6件 (9%)	6件 (8%)
5. コミュニケーションボード	25件 (36%)	33件 (42%)
6. ジェスチャー	28件 (40%)	42件 (54%)
7. アプリ	25件 (36%)	26件 (33%)
8. その他	2件 (3%)	0件 (0%)

アンケート結果を踏まえた今後の取組

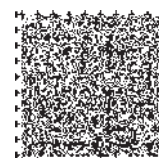
アンケート結果から、パラハートちょうふに関する取組が効果的であり、特に周囲の人の接し方に顕著な改善が見られました。これは市民の障害理解に対する意識の高まりを示すものであり、共生社会の充実へ資する重要なレガシーであると認識しています。

また、大会後のアンケート自由記述欄には、手話の普及啓発および学べる

環境の周知について、「多くの人が手話を気軽に学べる機会が増えることを望む」「聴覚障害者と友人になれるレベルの手話を習いたい」「ボランティア活動のための手話講座を開催してほしい」といった意見が寄せられました。これを踏まえ、社会福祉法人調布市社会福祉協議会が実施している手話講習会の周知活動を引き続き推進

していきます。

今後も大会を契機とした各種取組やこれまでの経験を活かし、障害の有無にかかわらず誰もが相互に豊かなコミュニケーションを図りつつつながることのできる共生社会の充実に向け、取り組んで参ります。





【編集・発行】

調布市生活文化スポーツ部スポーツ振興課
調布市福祉健康部障害福祉課
調布市教育部指導室

〒182-8511 東京都調布市小島町2丁目35番地1
TEL: 042-481-7111 (代表)

登録番号(刊行物番号) 2025-187
2026年3月発行

